

1. 基本情報

- (1) 国名：ジョージア
- (2) プロジェクトサイト／対象地域名：サメグレロ・ゼモ・スヴァネティ州ポチ市
- (3) 案件名：カスピ海ルート上のポチ港税関における貨物検査機材整備計画
(The Project for the Improvement of Freight-scanning Equipment at Poti Port on the Trans-caspian International Transport Route)
- (4) 計画の要約：本計画は、カスピ海ルート上に所在するジョージア西部ポチ港税関の大型 X 線検査機材を整備することにより、税関検査能力の強化及び通関手続きの迅速化を通じた密輸取締強化及び貿易円滑化の両立を図り、もってカスピ海ルートの連結性向上に寄与することを目的とする。

2. 計画の背景と必要性

- (1) 本計画を実施する外交的意義

ジョージアを含む南コーカサス地域は、アジアとヨーロッパを繋ぐゲートウェイとして地政学上の要衝に位置し、同国は国土の20%をロシアに占領される中で、EU・NATO加盟を目指して民主主義の強化と法制度の整備に取り組む等、我が国と基本的な価値を共有し、ルールに基づく自由で開かれた国際秩序を強化する重要なパートナーである。

また、ロシアによるウクライナ侵略以降、中央アジア・欧州間の物流ルートであるカスピ海ルートは、ロシアを経由しない代替ルートとしての位置づけに加え、紅海におけるホーシー派勢力の海賊行為による影響の中で、その重要性が高まっている。

さらに、我が国は、対中央アジア・コーカサス外交の基本方針として、中央アジア諸国・コーカサス諸国の、開かれ、安定し、持続可能な発展を後押しし、地域協力の触媒としての役割を果たしていくことを表明している。2022年12月の「中央アジア+日本」対話第9回外相会合の共同声明では、海への出口を模索する運輸・物流の各分野での協力が重要であることで一致しており、本計画はこれを具体化するものである。

アジア・ヨーロッパ間の結節点である黒海沿岸のジョージアの税関施設の充実を図ることは、カスピ海ルートの安全性・利便性の向上、中央アジア地域の運輸・物流の改善に寄与する他、インド太平洋地域との連結性向上の可能性も開き、ジョージアの経済開発及び安定にも資するものと言える。

- (2) ジョージアにおける税関セクター/中央アジア地域の開発の現状・課題及び本計画の位置付け

ユーラシア大陸の東西を結ぶ物流ルートは、中国からカザフスタン、ロシアを経て欧州に至るルート（北回廊）が主であったが、2022年2月のロシアによるウクライナ侵攻以降、対露経済制裁の影響を受けて不安定化している。このため、

ロシアを経由せず、中央アジアからカスピ海を横断し、コーカサス地域を通過して黒海へ至るカスピ海横断国際輸送ルート（以下、「カスピ海ルート」という。）への注目が高まっている。ロシア経由の中国－欧州間輸送量が 2021 年から 2022 年にかけて 31.9%減少する一方、同期間のカスピ海ルートの貨物輸送量は 2.5 倍（EBRD、2023 年 6 月）増加した。欧州復興開発銀行（EBRD）は、2030 年にはコンテナ貨物だけでも現在の 6 倍に増加すると予測している。

こうした状況を受け、現在、欧州連合（EU）や EBRD などがカスピ海ルート上の鉄道などの運輸インフラの増強への支援を計画している。他方、インフラ容量の制約以外にカスピ海及び黒海沿岸の港湾における長期の貨物滞留も同ルートにおけるボトルネックとして指摘されており、その一因として、国境税関での円滑かつ適正な検査の困難さがあげられている。

カスピ海ルートの西側の出入口であるジョージアの黒海に面したポチ港は、1 日あたり最大 400TEU（注：1TEU は 20 フィートコンテナ換算の荷物量の単位）の貨物を扱う、ジョージアの重要な物流拠点である。同港の取扱貨物量は、ロシアのウクライナ侵攻の影響により継続的な増加傾向にある（2024 年 JICA）。現在、同港には、大型 X 線検査装置 3 台が配備されているが、そのうち大型 X 線検査装置 1 台は故障して使用できず、稼働中の他の 2 台も老朽化が進んでおり貨物検査に時間を要している。

2023 年 12 月に EU 加盟候補国となったジョージアにとって、カスピ海ルートを通じた欧州と中央アジア・コーカサス地域との連結性の強化は最重要課題の一つであり、カザフスタン、アゼルバイジャン、トルコの 4 か国でカスピ海ルート整備に関するロードマップに署名し、協調して陸上・海上輸送のボトルネック解消に取り組んでいる。また、EU 側では対ロシア経済制裁の回避に係る迂回貿易に対する警戒感が強まっていることから、同政府は、増加する物流に対処するための検査の迅速性確保及び違法貨物の摘発能力向上のため、ポチ港における税関検査の体制を強化する方針を示している。

「カスピ海ルート上のポチ港税関大型貨物用検査機材整備計画」は、ポチ港税関における大型 X 線機材を整備することにより、貨物検査の迅速化と違法貨物の摘発率の向上を図り、もってジョージアと中央アジア及び欧州までの連結性強化に寄与するものである。

3. 計画概要

* 協力準備調査の結果変更されることがあります。

(1) 計画概要

① 計画内容

ア) 機材の内容

車両貨物・鉄道貨物用（固定式）大型 X 線機材各 1 台（計 2 台）

イ) コンサルティング・サービス/ソフトコンポーネントの内容

詳細設計、入札補助、調達監理、機材の運用・維持管理に係る研修

② 期待される開発効果：

ポチ港税関における通関手続きの迅速化（トラック貨物の 1 日あたりの X 線検

査実施数（年平均）400TEU→600TEU）及び税関検査能力の強化により、密輸取締強化と貿易円滑化の両立を通じてカスピ海ルートの連結性強化への貢献が期待される。

③ 計画実施機関／実施体制：ジョージア歳入庁

④ 他機関との連携・役割分担：

EU 及び傘下の国際金融機関は、カスピ海ルートにおける鉄道等の輸送インフラの増強を支援している。一方、国境における貨物の効率的な通過に関し、USAID は税関検査のデジタル化等を支援し、我が国は大型 X 線検査機材の導入やリスク管理の実施支援を行う。

⑤ 運営／維持管理体制：

ポチ港における税関検査の実施及び検査用機材の維持管理は歳入庁傘下の関税局が実施し、必要な予算措置は歳入庁が行う。

(2) その他特記事項

● 環境社会配慮カテゴリ分類：C

● ジェンダー分類：GI（ジェンダー主流化ニーズ調査・分析案件）

● ジョージアの所得水準は相対的に高いことから、「所得水準が相対的に高い国に対する無償資金協力の効果的な活用について」に基づき、無償資金協力の供与の適否について精査が必要である。

カスピ海ルートは中央アジア・コーカサス複数国にまたがっておりその整備をジョージアのみで負う事は難しい（広域性）。

ロシアによるウクライナ侵略を受け、ユーラシアの東西をつなぐ物流網についてロシアを通過しない代替ルートの整備、中央アジア・コーカサスと欧州の物流網・貿易の強化による中央アジアの近接国への経済的依存の緩和などの観点から、国際社会の課題及び「中央アジア+日本」対話等の我が国の外交政策に即してカスピ海ルートの物流円滑化に貢献することは急務である（外交的観点）。また米国や欧州もカスピ海ルートの税関法制度・能力強化等にそれぞれ事業を展開する意思を表明している（国際的観点）。ジョージア政府は外国から借入れに対して借入れ制限を行っており、円借款の活用について積極姿勢に転じておらず有償資金協力での案件形成は難しい（債務状況）。

4. 過去の類似案件の教訓と本計画への適用

ウズベキスタン共和国向け無償資金協力「国境税関大型貨物用検査機材整備計画（第一次）（第二次）」（事後評価年度 2017 年）の事後評価等では、高機能の機材を供与するにあたり、実施機関が当該機材の故障時に診断や修理を依頼できるよう、調達時に製造業者との約定期間を取り付けておくべきであるとの教訓が得られている。

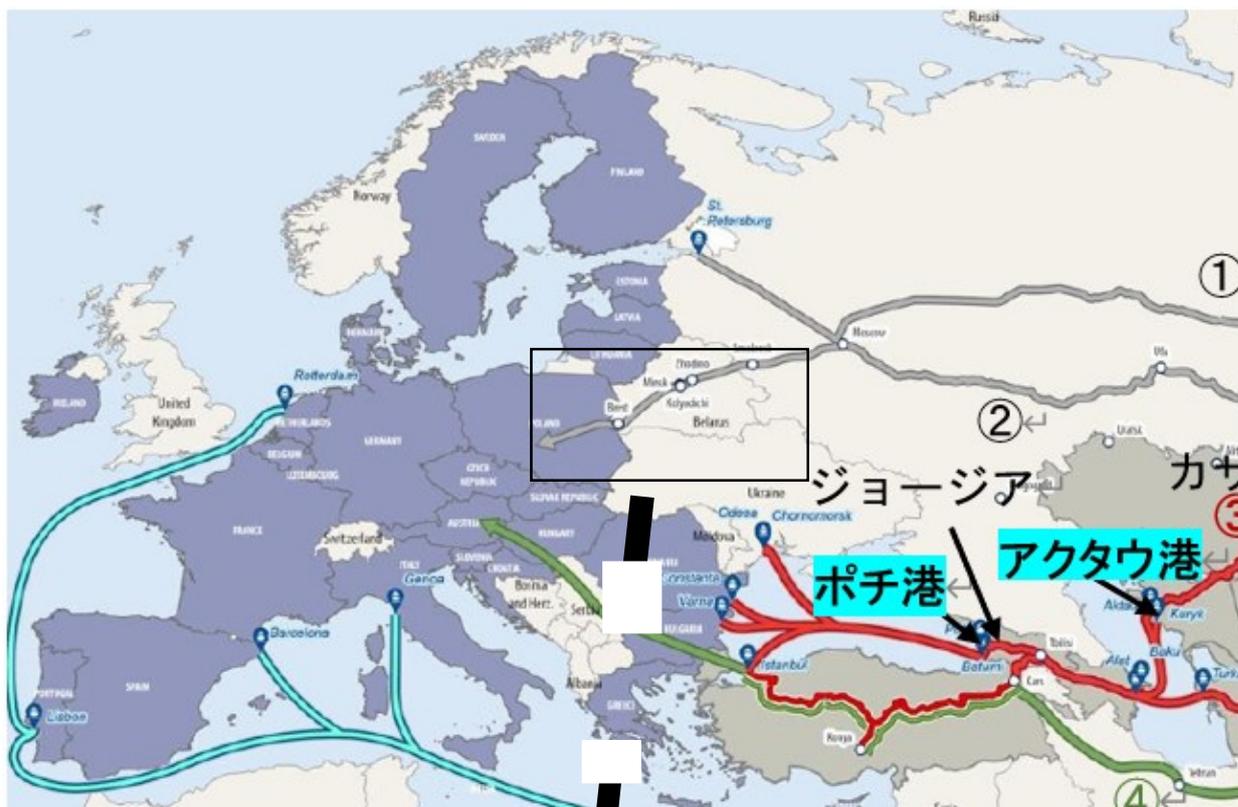
上述の教訓から、本計画では、税関の維持管理体制及び現地における製造業者の保守サービスの可否とその内容について協力準備調査で把握するとともに、現地での保守サービスの実施について入札条件として設定することを検討する。必要に応じ、ソフトコンポーネントで維持管理体制の構築及び運営強化のための指導を行う。

以 上

[別添資料] 地図「カスピ海ルート上のポチ港税関における貨物検査機材整備計画」

地図「カスピ海ルート上のポチ港税関における貨物検査機材整備計画」

カスピ海ルート全体図



コーカサス地域全図



出典：

(上図) Google Maps (地図データ©Google, 2024) より JICA 作成

(下図) EBRD「Sustainable transport connections between Europe and Central Asia (2023)」より JICA 作成